令和３年度第２回北信地域障害福祉自立支援協議会雇用支援ネットワーク部会議事録

日時　令和3年10月26日(火)

午後　2時45分～ 3時45分

場所　飯山庁舎3階大会議室

参加者（所属・敬称略）

平澤部会長、松井副部会長、篠原委員長、平澤陽委員長、田村委員長、久保田委員、小林恭委員、中宮委員、涌田委員、小嶋委員、小林文委員、山﨑委員、須藤委員、関口委員、丸山委員、佐々木委員、小橋委員、市村委員、事務局宮﨑、久保田、湯本、森山

１．開会　松井副部会長

２．あいさつ　平澤部会長

上期の活動を共有し、下期に向けた取り組みについても協議して頂きたい。

３．協議事項

事務局より資料確認　企業開拓委員長にアルビスファーム平澤サビ管にお願いいただく

（１）令和3年度雇用支援ネットワーク部会　上半期の活動状況について（別紙資料）

○個別支援員会　企業開拓委員会

「合同研修会」について　篠原委員長より報告いただく。

以下、いただいたご意見

・HW管轄のトライアル雇用制度、特開金（特定求職者雇用開発助成金）等の正しい利用について把握できていなかったので知識を整理できた。支援制度を活用してA型に留めるだけでなく就職者を出していきたい。制度の変更についても遅れることなく対応していきたい。

○就労アセスメント委員会　田村委員長より上半期の活動報告を頂く。あわせて圏域外の生徒さんについても委員会内で共有状況についてもご報告いただく。

以下、いただいたご意見

・11月10より飯山養護秋の実習でのアセスメントを控えている。ふっくら工房の綿谷さんよりレクチャーを受け客観的な観察の実施を心掛けたい。数をこなすことで実践を積み勉強したい。

・委員会内の共有を通じてアセスメントスキルの向上をはかっている。報告会を通じて生徒も前向きに捉えている様子があった。

（２）各機関より（情報共有・意見交換）

・飯山養護学校より　（別紙資料）
圏域内の生活介護事業所利用が「狭き門」になっている。通うとなると送迎の課題がある。

行きたい事業所に行けない。岳北方面と岳南方面との事業所数の違い。

就労B利用でも就職を希望する方には一般就労に向けた支援を提供いただくとありがたい。

支援ノウハウをともに学び合う機会があればよい。

以下、いただいたご意見

・相談支援専門員間でも生活介護や就B利用についての状況についてはあがってきている。幹事会でサービス利用の実態についてリサーチした。その中で、就Bの利用形態が多岐にあること、利用状況が事業所によって偏りがある状況が判明した。地域課題として送迎のあるなしによる利用の偏り改善、就Bからの就職者の輩出など、アセスメント含め支援力の向上に期待したい。

・支援が足りていないのなら検討は必要。就Bからの就職者は出してほしい。通所利用に有効な助成活用

・中野市民しか利用できないサービス事業所（就B）について、利用の範囲は拡げられないか。またどこで協議したらよいのか。→「基準該当」

・利用者の制限がとれるかどうか。今ある資源を工夫して利用に繋がれるか、調べていく。

・今後どれくらいの卒業生がどのような将来ニーズがあるのか、データを集約し、共有していきたい。

・事業所の状況や卒業生の希望やニーズがどのようなものか今後も協議会等で集約していきたい。

・生活介護サービスの現状については他の部会（本人中心やサービス向上など）とも共有し、協議会として議論していく方向が望ましい。卒後にどのようなニーズをお持ちの方がどのくらいおられるのか、基幹相談と連携しデータの集約を進めてほしい。第6期福祉計画が進行中であるため、次の計画に反映できる準備をしていただきたい。人口15万人ほどの飯伊圏域はB型から7名の就職者を出す計画。北信圏域の3名は少ないと思うのでB型からの就職者に期待したい。

４．その他

・元アルビスファームの引原さんは現在「信州福祉ファーム」の施設長として勤務されている

・窓口対応の中で障がいの多様化、家族のようすや家庭背景の複雑化がみられる。

・送迎の課題に対しては今後も対応が必要と思う。

短期トレーニング事業について（別紙参照）上期8名実施　6名の就職に繋がっている
県就労支援部会より　12月20日午後WEB研修予定　各圏域の実態について

・社会就労センターや企業センター「基準該当」　検討できる　国が認めた「就労アセス」ができる事業所なので、就労移行サービスの事業をとることも提案した経緯がある。

次回部会　　令和4年2月8日（火）　10時00分～11時30分　予定　※会場未定